



# 常任委員会・閉会中の事務調査

## 産業建設常任委員会

平成21年11月5日に産業建設常任委員会を開催し、所管事務調査を行いました。

### 一 下水道整備事業の進捗状況について

平成20年度末の、公共下水道、集落排水、合併浄化槽を合わせた整備状況は、下水道が使用可能な人口の割合を示す普及率が74.3%で、県平均の78.4%に近づきつつあるものの県内31市町村中24位となっており、実際に下水道に接続している人の割合を表す水洗化率については、60.9%となっています。

21年度、公共下水道は水原地区では市街地周辺部の整備拡大と堀越地区への延伸、京ヶ瀬地区は前山地区の幹線延伸・面整備と曾郷地区の公共下水道への切り替え、笹神地区では神山地区の面整備を進めています。本年度の予算額は約10億6千7百万円で、およそ1,050人の新規供用を見込んでいます。地区ごとの均衡ある整備促進と、接続率の向上に向けた取り組みが求められるものです。

集落排水事業では、本年度予算額約4億6千万円で、平成17年度から整備を進めてきた分田地区も本年度末で公共下水道への接続を終え、処理区内2,880人、674戸が供用開始される見込みで、農業用排水の水質保全や生活環境の改善に大きな効果が期待されます。総事業費は2,358百万円で、総延長24.2kmとなっています。

### 二 林道の整備状況について

広域基幹林道五頭山麓南線は、森林の多目的機能が期待される広域な森林地域の骨格的林道として、既設の林道との連絡により地域路網のネットワークを形成することを目的に、五頭連峰の南西山麓を南北に縦断する線形で、草水から大室までの約14.8kmを幅員4mの1級自動車道アスファルト簡易舗装で開設するもので、総事業費は4,255百万円、開設単価は1mあたり287千円となっています。

平成20年度末の進捗状況は全体で50%で、本年度は、安田工区で243m、水原工区で298m、笹神工区で220mの開設が計画され、水原工区と笹神工区は連絡される予定となっています。安田工区では、平成22年度以降開設延長で6,607mの残事業となり、当面は既設上山林道と連絡させる事を目標として、残りの6,110mについては凍結し時間をかけて検討することとしています。

合併前の平成7年全体計画調査から、数々の議論が重ねられ進められてきた広域基幹林道五頭山麓南線ですが、現地調査においても切土箇所や崩落や工事用重機によるものと思われるアスファルト舗装の損傷が散見されたもので、これからの活用方策、維持管理、安全対策について充分な検討を要するものと思われる。



- 閉会中の継続調査事項（3月定例会まで）
- (1) 観光振興施策の取組み状況について
- (2) 生産調整の実施状況について

## 先進地行政視察報告

視察期日 平成21年11月19日(木)

視察場所 富山県 南砺市役所 議会事務局

研修事項 議会だよりの編集について

南砺市は、富山県の南西に位置し、人口は58,000人、面積は669㎡、平成16年11月に8つの町村が合併した。面積の約8割が白山国立公園等を含む森林であり、北部の平野部は、水田地帯の中に美しい「散居村」の風景が広がる自然豊かな市である。

議会だよりの発行は、合併直後の平成17年1月に創刊号を発行し、定例会毎年4回、現在20号を数える。

創刊号の発行から議員が主体となり、原稿作成、写真撮影、校正等の編集を行ない、常に研究を重ね改善を行っている。

合併後、直ちに議会だよりの発行できたことについては、開かれた議会を市民にお知らせすることはあたりまえと考え、新市としてすぐに発行した。

南砺市議会だよりの編集方針の特色は、

- ・平易な用語を用い、分かりやすく読みやすい紙面の工夫に心がけ、見出しだけで内容がわかるように「〜について」という見出しは極力避けている。表記や字句については、「記者ハンドブック新聞用語集」を用いて統一したルールで編集し、新聞記者を招き評価してもらおう勉強会も行っている。
- ・議会での出来事を「公平」「中立」な立場で市民に知らせよう、編集に気を配っている。

原稿は委員が分担執筆し、写真は委員自ら撮影する。写真撮り等取材の中で市民と接触でき、議会活動に理解を得ることもつながっている。

また、新人議員が広報を担当することにより、議会そのものの勉強ができ、新しい感覚を取り込むことができる。

以上のように細かいところまで気を配り、市民がいかに目にとめ、手に取り、読んでもらうかを考えている。

紙面は、全体的に統一性があり、すっきりし非常に見やすい。タイトル、文章等も簡潔で余白や遊びの部分を取り入れ、表紙の写真の季節感、記事には写真を多用し内容がよく伝わり説得力を感じた。

この研修で得た多くの学びを基に、当委員会としても積極的に改善を加え、よりわかりやすく読みやすい紙面、また、一方的な情報発信にとどめず、市民の意見を吸い上げる紙面、相互に意見交換ができる紙面づくりにつなげていきたい。



## 阿賀北四市議会議員 合同研修会を開催

阿賀北の四市議会（新発田市、村上市、胎内市、阿賀野市）は、毎年協議会と議員研修を実施しており、今年は11月16日に阿賀野市で開催しました。

四市正副議長による協議会では、阿賀北地域の振興のための共通課題である「日本海沿岸東北自動車道の整備促進」、「羽越本線の高速化推進と白新線整備促進」を県市議会議長会に提出し、その実現のため要望していくことを協議し決定しました。

その後、新潟県産業労働観光部 新産業企画監 河合雅樹氏から「阿賀北四市の新産業の可能性と手法について」と題し講演をいただきました。

講師の河合企画監は、平成17年新潟県が公募した民間からの人材登用により就任され、産業政策の重点戦略として健康・福祉・医療を新産業ビジョンにすえ健康ビジネス連峰構想などの策定のほか、これまでの知識と経験を活かされ新潟県の産業振興に活躍されています。

今回の研修では、健康と長寿、食、低炭素社会の観点からの新産業の可能性や新エネルギーの取組み、食をテーマにした事例や成功例、「天人」トキめき新潟国体の観光への影響など分かりやすく説明いただきました。

健康ビジネスは、健康・福祉・医療という、個人・社会ニーズに対応するビジネスであり、人口減少にあっても、今後市場規模が拡大していくこと。

健康ニーズは裾野が広く、幅広い業態から参入が可能であり、農林水産業、観光産業、食品産業、機械工業や自然資源など、新潟県の豊富な資源を活用できること。

実際この観点から異業種、大学等と連携して新たに生まれた「ものづくり型」「食品型」「サービス型」「健康ツアー型」などの具体的な事例は、参加者をうならせていました。

参加した議員は、地元産業振興のヒントを得るため真剣なまなざしで聞きメモをとり、盛んに質問していました。

